

マレーシア旅行フェア

「MATTA FAIR Kuala Lumpur August 2011」 報告書

シンガポール事務所

自治体国際化協会シンガポール事務所では、2011年8月12日(金)から14日(日)まで、マレーシア・クアラルンプールで開催された「MATTA FAIR Kuala Lumpur 2011」に参加し、日本政府観光局(JNTO)と協力して来場者に日本各地の観光情報を提供した。

PRにあたり、各自治体から御提供いただいた観光パンフレット等は、ジャパン・パビリオンのVJ(ビジット・ジャパン)カウンターで、来場者に対し配布・提示、説明を行った。本国際旅行フェアの概要等について、下記のとおり報告する。

1 「MATTA FAIR Kuala Lumpur 2011」の概要

- フェア概要

マレーシア旅行業協会 MATTA (Malaysian Association of Tour and Travel Agents) が主催する一般旅行者向けの国際旅行フェアで、マレーシア国内の主要都市で年間を通じ開催されている。その中でも、例年3月及び8~9月頃に首都クアラルンプールで開催されるものは、マレーシア最大規模のフェアとされており、旅行会社によるパッケージツアーや航空券の販売、各国政府観光局による宣伝等が行われている。

- 日時 : 2011年8月12日(金)~14日(日)
- 開催場所 : Putra World Trade Centre (PWTC) Hall1~Hall3
(41, Jalan Tun Ismail, 50480 Kuala Lumpur)
- ※入場料 : RM 5 (約 128 円 : 2011年8月12日現在
RM 1 = 約 25.53 円)
- 来場者数 : 3日間合計 80,100 人
(内訳) 8月12日(金) 19,200 人
8月13日(土) 29,800 人
8月14日(日) 31,100 人

(参考 : MATTA FAIR September 2010 in Kuala Lumpur 来場者数 76,300 人)

- 出展ブース数 : 950 ブース
- 出展団体数 : 214 団体
(内訳) 政府観光局 : 23 マレーシア州観光局 : 5
ホテル : 34 旅行会社 : 97
航空会社 : 3 クルーズ会社 : 3
その他(テーマパーク、出版業、ブライダル業等) : 49



チケット売場にてきた長い列



フェア会場の様子

2 ジャパン・パビリオンの出展

(1) ジャパン・パビリオン

JNTO が設けたジャパン・パビリオンには、日本各地から出展者が集まった。

(出展団体)

関西広域機構、日本学生支援機構、セントラル北海道観光プロモーション、仙台市・東北観光推進機構、財団法人沖縄観光コンベンションビューロー、岐阜県、北海道運輸局、札幌市、株式会社オリエンタルランド

(2) VJ (ビジット・ジャパン) カウンター

ジャパン・パビリオン内の VJ カウンターでは、訪日旅行に関する総合的な案内窓口として、来場者への各種観光パンフレットの配布や説明、質問への対応のほか、来場者へのアンケート調査、訪日旅行商品購入者に対するノベルティ T シャツのプレゼント等が行われた。

(3) 当事務所の活動内容

フェア開催に先立ち、当協会支部を通じて、自治体の観光パンフレットや DVD 等の提供を依頼したところ、多くの自治体から御提供いただいた。

(24 都道府県、37 市、17 区町村、10 観光団体、計 88 団体)

フェア期間中、VJ カウンターにおいて、上記観光パンフレットの配布・説明を行い、来場者へ日本各地の観光関連情報を提供した。また、日本各地の観光ウェブサイト一覧(英語)を作成し、来場者に配布した。



VJ カウンター



自治体から寄せられたパンフレット

3 フェアの様子

VJ カウンターに寄せられた来場者からの声や、MATTA 会場の様子で印象に残った点は以下のとおりである。

■東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の影響

VJ カウンターを訪れる人々からは「この時期に日本へ旅行しても安全か」「〇〇県の放

射能レベルはどの程度か」といった訪日旅行の安全性を懸念する問い合わせが寄せられた。日本の現状に関する正確な情報が伝わっていないために、訪日に対して慎重な姿勢をとっている消費者が多い印象を受けた。会場で各旅行会社が販売する訪日旅行商品の数も、前回 2011 年 3 月開催時の 3 割程度にとどまっており、ゴールデンルート（東京、京都、大阪等）や北海道、そして岐阜など中部地方の商品が中心であった。それら以外の地域は、前回のフェアでは見られたものの、今回はほとんど見られなかった。

■パンフレット配布にあたって

カウンターに並ぶ全てのパンフレットを収集する来場者が多く見られる一方で、特定の地域のパンフレットだけを持ち帰る来場者も増えたように感じた。日本に関する情報がまだまだ不足していると言われるマレーシアにおいて、人々の間に訪日に関する基本的な情報が徐々に浸透し始めていることを実感するとともに、訪日旅行経験者が新たな旅行先を求めて VJ ブースを訪れるケースが少なくなかったのが印象的であった。



パンフレットを手にする来場者

なお、マレーシアにおいては、「北海道」「東京」「大阪」などの地名は消費者に広く認知されているが、各市区町村の知名度はまだまだ低いのが現状である。消費者への PR にあたっては、パンフレットに都道府県名も併せて記載することも一考する余地があると感じた。

■格安航空会社 Air Asia X の大阪便就航

マレーシアの格安航空会社 Air Asia X が今年 11 月 30 日から関西国際空港とクアラルンプールを結ぶ便を就航することから、大阪の情報を求めて VJ ブースを訪れる来場者も少なくなかった。（より詳細な情報を提供するため、関西広域機構のブースへ足を運ぶよう案内したが、大阪が関西であるという認識が未だ浸透していないように感じた。）



Air Asia X のチケットカウンター

■韓国ブースの台頭

今回のフェア会場において、日本行き商品に代わって目を引いたのが韓国や台湾行きの商品であった。殊に、韓国は現在、国を挙げて観光客誘致促進キャンペーン「2010-2012 Visit Korea Year」に取り組んでおり、韓国観光公社（KTO）のブースにおいては、ウィンタースポーツを PR する装飾や人気アイドルグループ（K-POP）のビデオ映像、韓国コスメといった様々な素材で来場者の注目を集めていた。

【来場者から受けた主な質問】

- ・ JR パスの利用可能区間や料金について教えてほしい。
- ・ 有名な花見の場所や時期について教えてほしい。
- ・ 東京、大阪、福岡には行ったことがある。それら3都市に次ぐ都会に行きたい。
- ・ 子供向け施設がある地域に旅行したい。どこがお勧めか。
- ・ 肌を露出せずに入れる温泉（水着着用可など）はないか。
- ・ 雪を見るには、いつ・どこに行けばいいか教えてほしい。
- ・ お勧めのホテルと価格、及び日本で最も安い旅行会社を教えてほしい。
- ・ ハラル対応のレストランやホテルの一覧表がほしい。
- ・ ビザ取得に必要な書類や所要日数、代理申請の可否について教えてほしい。
- ・ バックパック旅行を考えているが、東京以外の地域では英語は通じるか。

4 MATTA 併催事業（セミナー・商談会）

8月15日（月）には、MATTA 併催事業として、マレーシアの旅行代理店関係者やメディア関係者を対象とした訪日旅行に関するセミナー及び商談会「Visit Japan Travel Trade Meet」が開催された。これは、震災以降落ち込んだ訪日誘客の復活に向け、マレーシア側関係者に日本の現状を伝えるとともに、マレーシアで訪日旅行を取り扱う旅行会社の拡大を目指すことを目的に、観光庁及びJNTOが主催したものである。

■セミナー

セミナーでは、北海道・仙台/東北・岐阜県・関西広域機構・沖縄観光コンベンションビューローの5団体がプレゼンテーションを行い、各地のPRを行うとともに、震災後の各地の現状について説明を行った。

「Road to Recovery of SENDAI, TOHOKU」と題した仙台市のプレゼンテーションでは、震災直後の街の状況や復興が進む現在の街の姿、そして仙台市在住の外国人からのメッセージなどが写真や動画で披露され、担当者が「仙台市に足を運んでいただき、市民と話をしてください。そのことが仙台市の復興に繋がるのです」と訴えると、会場からは大きな拍手が沸き起こった。



プレゼンテーションの様子

■商談会

セミナー終了後に開催された商談会では、日本側の15団体が商談ブースを設け、マレーシアの旅行代理店関係者に対し各地域の売込みを行うとともに、訪日旅行商品の造成・販売に関する話し合いが行われた。

昨年8月からマレーシアでのPR活動を本格化させ、徐々に認知度が高まっている岐阜県は、観光と食品・文



東北地方の現状を説明する
仙台/東北ブースの担当者

化をうまくリンクさせながら総合的な観光を提案。また、今年からマレーシアでのプロモーション活動を積極化している沖縄県は、世界遺産の首里城跡やリゾートウェディングなどを紹介していた。「マレーシアの人々に東北の現状をしっかりと伝えたい」と話す仙台市の担当者は、仙台/東北ブースにおいて、震災後の東北各地の写真を提示しながら訪日旅行の安全性を訴えていた。

今回、当事務所もクリアブースを設け、日本各地の観光情報の提供を行った。東京・関西・北海道以外の地域の情報量が絶対的に不足している状況の中、旅行業関係者は新たな旅行先の開拓に非常に意欲的であった。マレーシアからの直行便がある東京・大阪から陸路で1時間程度で行くことができる観光地や具体的なモデルコース、移動手段ごとの所要時間などについて詳細な情報を求められた。



クリアブースの様子

【来場者からの情報・質問】

- ・大阪、神戸、京都の情報は皆ある程度持っている。他にお勧めの地域を教えてください。
- ・箱根は10～11月は予約でいっぱいなので、近場の温泉を教えてください。
- ・現在、訪日旅行は割安だが、消費者の需要に伴い価格も元に戻ると思う。そうなった場合、どのくらいの金額になりそうか。
- ・空港からバスで2時間以内に回ることができる観光地の情報がほしい。
- ・駅や道路、乗り物に英語または中国語表記が整備されていて、個人でも迷わず行くことができるか。

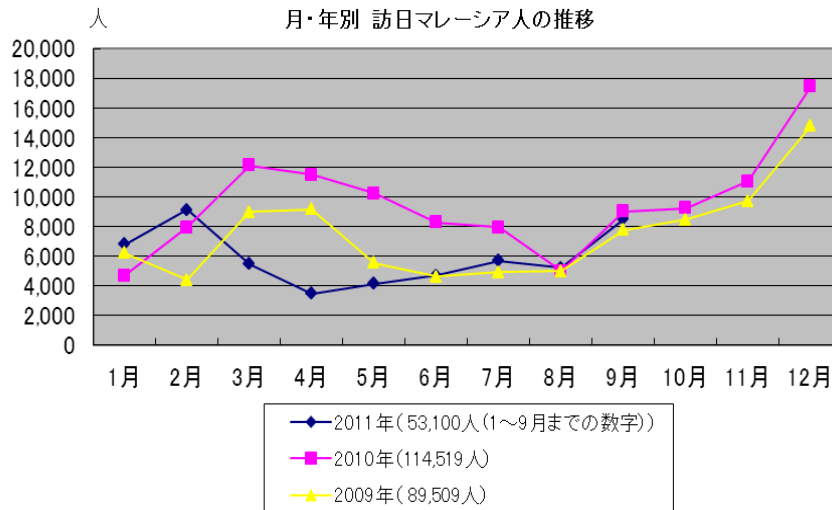
5 マレーシアにおける訪日旅行の現状について

JNTOの発表によると、2011年8月のマレーシアからの訪日者数は5,200人で、対前年同月比4.1%増と、震災後初めてプラスに転じた。これは、昨年は9月であった断食明け大祭（ハリラヤ）の祝日が今年は8月にずれたことに拠るところが大きい。例年、5～6月及び11～12月の学校休暇に次ぐ旧正月と同程度の出国のピークシーズンとなる断食明け大祭の祝日が、今年は独立記念日の振替休日と重なって3連休となり、かつ、航空会社や日本国内のホテルが提示する割引価格により、ツアー料金が昨年と比較し7～8割の価格となっていることが、訪日者数増加の大きな要因となっている。（一方で、断食明け大祭が8月にずれたことにより、9月の訪日者数は8,500人、対前年同月比5.9%減となった。）

既述したが、マレーシアの格安航空会社 Air Asia X は、2011年11月30日より関西国際空港とクアラルンプールを結ぶ便を開設する。キャンペーン期間中（8月11日～8月14日）は、特別価格としてエコノミー席の1～2割が片道3,931円（空港税など4,150円が別途必要。通常時の価格は、エコノミーで片道1万4千円～7万円）で発売された。JNTOによると、Air Asia X の大阪便就航により訪日への関心が高まり、同社の羽田便も高い搭乗率を保っているようである。マレーシアでは、Air Asia を利用した格安のパッケージツアー

一も販売されており、マレーシアの人々にとって訪日旅行がより身近なものになったと思われる。

一方、各旅行会社も、7月に震災後初めてとなる新千歳行きチャーター便を運航したり、訪日旅行商品を購入するともう1名が無料となるキャンペーンを実施するなど、訪日旅行の需要喚起に力を入れている。さらに、年末の学校休暇期の旅行シーズンに向けたチャーター便（新千歳行き）の運航を予定している旅行会社もあり、こうした取組みが訪日者数の増加に繋がると期待されている。



6 おわりに

東日本大震災の影響で減少しているマレーシア人の訪日旅行を回復させるため、航空会社や旅行会社によるプロモーション活動や訪日旅行の広告出稿などが継続的に実施されている。しかし、VJブースで来場者から寄せられた声を見ると、今後更にメディアを活用し、震災の影響に関する正確な情報を発信することが大事だと痛感した。今回の MATTA フェア期間中、テレビ局が仙台市に同行取材を行い、その様子がマレーシアの地元紙で大きく取り上げられた。メディアや口コミを通じて訪日旅行の安全性を訴え、消費者の不安感を払拭することが訪日者数の回復に繋がるものと考えられる。

JNTO の発表によると、2010 年におけるマレーシア人の訪日形態は、観光客 80,308 人、商用客が 24,974 人、その他 9,237 人で、全体の約 7 割が団体旅行となっているが、Air Asia X の大阪便就航により、今後は個人旅行での訪日が増えると予想されている。また、訪日経験を持つ人の増加に加え、フェア会場で日本のパンフレットを選んで手に取る消費者の姿を見ると、今後、マレーシアの消費者のニーズは徐々に多様化していくと考えられる。ゴールデンルートや北海道以外の旅行先、自然（風景）を楽しめる旅行、フルーツ狩りや川下りといったアクティビティに関する情報等、今後は個人旅行者の様々なニーズに対応したきめ細かな情報提供が求められる。ビザ申請手続きの簡素化やハラル対応などの取組みも今後の課題であるが、現段階では継続的に日本各地の情報を発信することが大事であると感じた。

当事務所では、今後も日本国内自治体への各種支援を通じて、訪日旅行の促進を図って
いきたいと考えている。

～次回 MATTA FAIR March 2012 開催予定～

日時：2012 年 3 月 16 日（金）～18 日（日）

場所：Putra World Trade Centre (PWTC)

(中村所長補佐 宮崎県派遣)

(小島所長補佐 仙台市派遣)

(原田所長補佐 山口市派遣)

